

女性向けファッション誌表紙に見るスタイルの変化

本稿は、長年刊行されている雑誌の表紙の構成が、どのように変化していったのかを分析し、考察を行った。対象の雑誌は『an・an』である。表紙の文字や言葉に関する研究は多く見られたが、表紙の人物の研究は少ないようである。人物の性別、服装、映り方、表現形式、人数、職業、テーマの項目を作成し、創刊開始の1970年から5年ごとに分析を行った。

分析の結果、大きな変化が見られた項目は、「性別」、「テーマ」、「人物の職業」であった。「性別」では1970年～1995年では女性の割合が70%以上であったのが2000年以降、2005年を除いて女性の割合が減少していき、最新の2020年では男性が83%と女性よりも上回っていた。「職業」では、1970年～1990年までは、日本人モデルや海外モデルが多くを占めていたが、1995年以降、表紙を飾るモデルの職業が多様になり、女優や俳優、男性アイドルといった職業の人物が表紙を飾るようになる。2020年では男性アイドルが59%とその年の半分以上が飾っていることが分かった。「テーマ」では、1970年～1980年は主に「ファッション」を占めていたが、1985年以降ではファッションだけでなく、ライフスタイルや、料理、占い、恋愛などといった項目が増加し幅広くテーマを扱うようになった。1970年～1985年の昭和期にかけては、女性やファッションを中心に外見的要素をターゲットにしていたのが、1990年～2020年では、ライフスタイルなどといった自分の内面的要素に関わる内容にフォーカスしていったと考えられる。